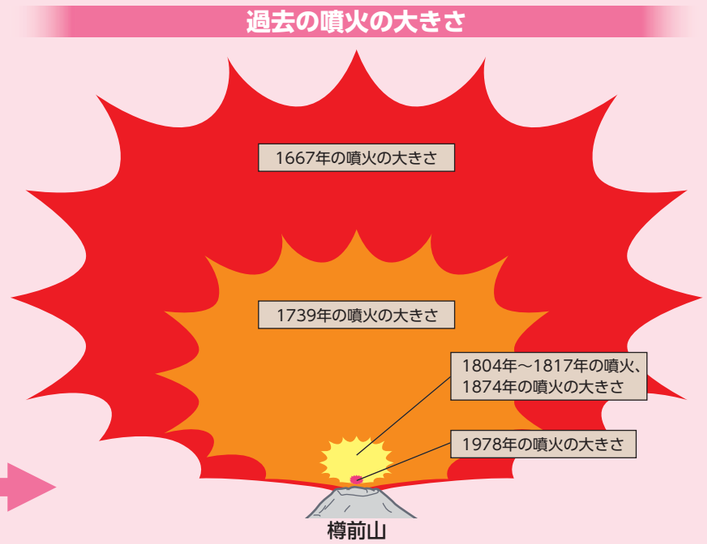
火山災害に備えて

●樽前山の火山活動

樽前山（標高 1,041m）は、支笏カルデラの南部に位置し、現在も活動を続ける「活火山」です。頂上部には、北西に開く直径 1.5km の頂部カルデラを持ち、そのほぼ中央部には中央火山丘が存在します。また、中央火山口の中央には、1909 年の噴火でできた溶岩ドームがあります。

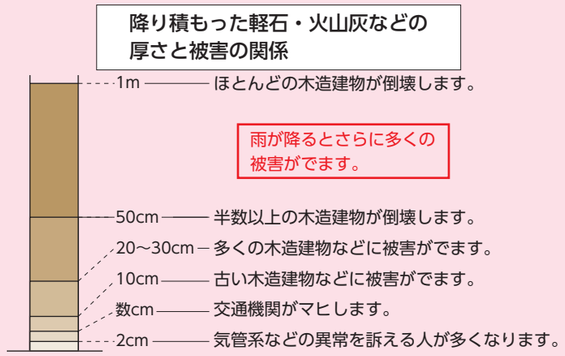
樽前山は約 2500 年前や 1667 年、1739 年に大きな噴火があったことがわかっています。19 世紀までには 70 回以上の噴火が記録されており、最近では 1981 年（昭和 56 年）に噴火しました。

噴火の大きさは、噴出した灰や溶岩などの量の多さを表わしています。



●樽前山の噴火被害

これまでの噴火の状況から、樽前山の噴火が起きると、次のような被害が想定されます。



●降灰による被害

火山灰は上空の風向きにより運ばれる範囲が変わります。上空の風向きは強い西風の日が多いため、降灰の危険区域は主に樽前山の東側に広がります。

●噴出岩塊による被害

爆発的な噴火により、直径数 10cm ～数 m の岩が火口から数 km の範囲まで飛びます。火口に近いところでは飛んできた岩によって、建物・車の破損や死傷者がでる危険性があります。

●火砕流による被害

火砕流は、高温の火砕物（火山灰、軽石等）と火山ガスが一体となって、時速 100km を超える速さで斜面を流れ下りる現象です。数百度の高熱によって、家・田畑・森林などを焼失・破壊し、壊滅的な被害をもたらします。

●泥流・土石流による被害

泥流・土石流は、土・岩片などが水と混ざりあって時速数 10km ほどの速さで谷を流れ下り、谷の出口で氾濫する現象で、谷とその出口、低い場所が危険区域になります。積雪が火砕流などの熱で一気に融けたときや、火山灰などが降り積もったところに雨が降ったときに発生し、田畑・家・橋までも押し流します。

●樽前山の噴火に備える

樽前山の噴火に備えて、また実際に噴火が発生した場合に落ち着いて行動できるよう、日常から以下の事に心掛けましょう。

日頃から噴火の特徴について、知識を得ておきましょう。

家族で避難所の位置を確認しておきましょう。

噴火の前兆があったときは、持ち出すものを準備しましょう。

噴火の際には、防災機関から正しい情報を入手しましょう。

避難勧告・指示等が発令されたときは、速やかに避難しましょう。

●噴火警報と噴火警戒レベル

気象庁では、24 時間体制で樽前山を監視し、火山現象が発生するのを確認した場合、噴火警報や火口周辺警報を発表し、報道機関や防災機関に通報します。気象庁では、下表のように噴火警戒レベルとして火山活動の状況に応じ、「警戒が必要な範囲」と防災機関や住民等が「とるべき防災対応」を 5 段階で設定・発表しています。樽前山が噴火した際には、噴火警戒レベルを目安として避難行動をとりましょう。

噴火警報と噴火警戒レベル（気象庁）

危険度大

予報警報	警戒レベル	火山活動の状況	住民等の行動
噴火警報	レベル 5（避難）居住地域	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難などが必要（状況に応じて対象地域や方法などを判断）。
	レベル 4（避難準備）居住地域	高いところで 2m 程度の津波が予想されます。沿岸地域の方は直ちに安全なところに避難してください。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難などが必要（状況に応じて対象地域を判断）。
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）火口から居住地域近くまで	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活（今後の火山活動の推移に注意。入山規制）。状況に応じて災害時要援護者の避難準備など。
	レベル 2（火口周辺規制）火口周辺	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活
噴火予報	レベル 1（平常）火口内等	火山活動は平常。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴火などが見られる。	